

下北半島のサル

2016年度（平成28年度）

調査報告書



NPO法人
ニホンザル・フィールドステーション

平成 28 年度

天然記念物生息調査

むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

調査報告書

平成 29 年 4 月

特定非営利活動法人 ニホンザル・フィールドステーション

平成 28 年度 天然記念物生息調査
むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査地域	1
3 調査内容	2
4 調査並びに調査結果への取り組み方	2

II 調査結果

1 夏季ニホンザル調査結果	5
2 事前調査	2 2
3 冬季ニホンザル調査結果	2 4
A 大畑・薬研地区	2 4
B 脇野沢・川内地区	3 3
4 補足調査	4 4
5 まとめ	4 5
訂正	5 2

表紙写真

GPS対応のテレメを装着したA87a群の
大人メス「ボウナ」

2017年（H29）3月18日 九艘泊地区

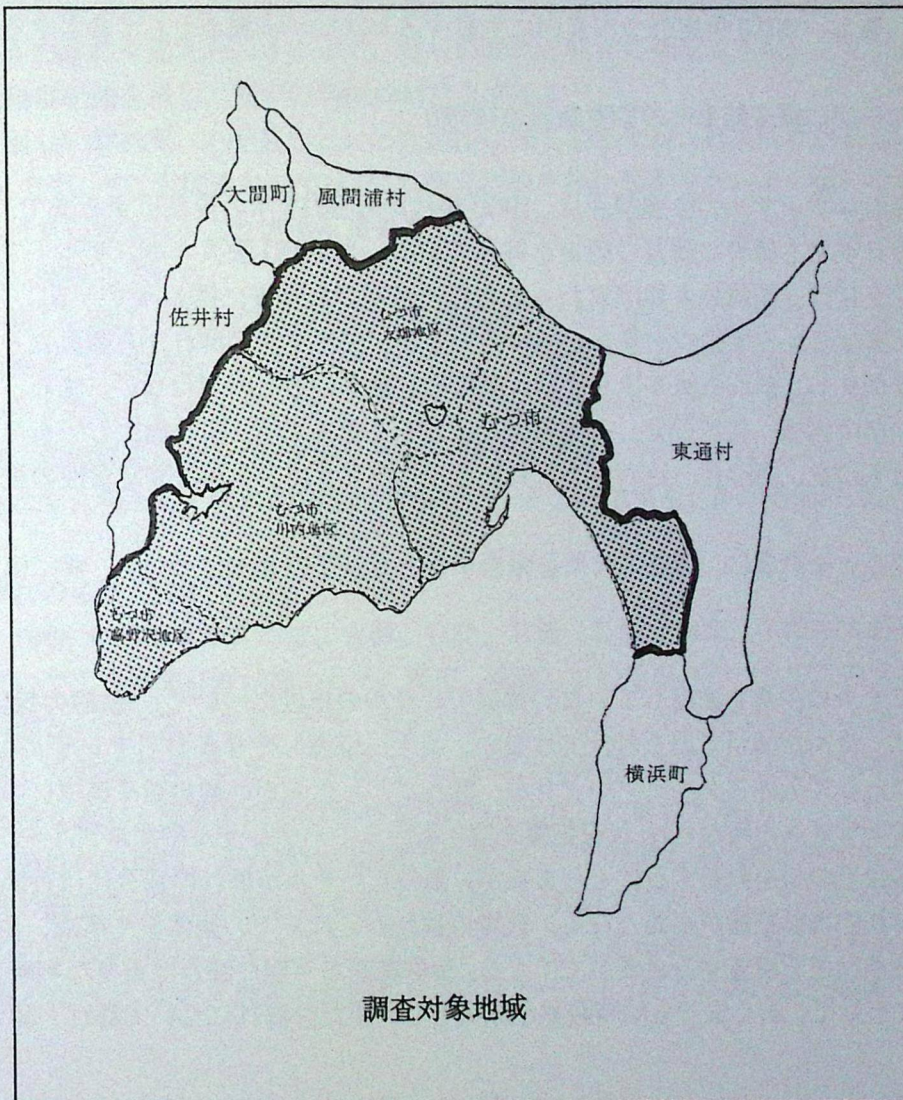
I 調査の概要

1. 調査目的

本天然記念物生息調査は、むつ市及び下北半島に生息するニホンザルについて、生息頭数の増大等により、農作物の食害のみならず、集落地等への定着が進み、地域住民との軋轢が増大し、地域住民とニホンザルの共生対策の確立が急務となっていること、青森県が策定する第一第二種特定鳥獣管理計画では、モニタリング調査結果を踏まえ、保護対策、生息実態に即した捕獲数などの実施計画を各市町村で作成することとなっていることから、必要な情報を得るため、むつ市管内脇野沢地区・川内地区・大畑薬研地区に生息するニホンザルの生息調査等を実施する。

2. 調査地域

むつ市 脇野沢地区・川内地区。大畑薬研地区



3. 調査内容

1. むつ市 大畑・薬研地区と脇野沢・川内地区のニホンザル生息調査について
むつ市管内に生息するニホンザル個体群の現状について、特定非営利活動法人ニホンザル・フィールドステーションが
 - ① 2016年8月に脇野沢・川内地区を調査範囲として夏季ニホンザル調査を実施、また、2016年の秋以降むつ市脇野沢地区を中心に事前調査を実施した。
 - ② 2016年12月21日～26日(6日間)大畑・薬研地区、12月25日～29日(5日間)脇野沢・川内地区を調査地域として冬季ニホンザル調査を実施した。
 - ③ 2017年1月に補足調査を実施した。

2. まとめ

上記、夏季ニホンザル調査・事前調査・冬季ニホンザル調査・補足調査の結果を集計解析した。また、むつ市管内のニホンザル出没状況の聞き取り調査も加味し、2016年度むつ市管内に生息するニホンザル調査として報告する。

4. 調査ならびに調査結果への取り組み方(姿勢)

下北半島のニホンザルの生態調査は、1960年代から2017年の現在に至るまで、継続調査している日本でも稀有な調査の歴史を持っている。当NPO法人ニホンザル・フィールドステーションは、団体の名称は変わったものの当初から調査に携わっている。

毎回、正確なサルの実態の把握を心がけているが、突然サルが群れから離れたり、群れに入ってきたりし、群れの個体数も変動、常に同じ数があるものではない。また、今まで生息していない地域へ突然遊動し行動範囲を広げることもある。採食物にしても今まで食べなかったものを、突然食べ始めることもある。このように、サルは非定常性の生き物といえる。

これらのことを念頭に、調査の成果を報告する上で以下の3点について、特に慎重に判断してきた。

① 今までサルの生息を確認していない地域でのサルの出没について。(新群の扱い)

突然、サルが湧いて出るわけではない。まず、出没したサルがハナレザルか否か、複数だとしてもオスグループかどうか、群れだとしたらその個体数や構成(ベビーの数やオトナオスの数など)と状況把握を第一に行う。ハナレザルやオスグループだとした場合その旨を報告するにとどまるが、出没したサルが群れの場合には近隣のサルの群れの実態把握が必要となる。近隣の群れのこれまでの個体数や構成、生息域、観察地点などを精査する必要がでてくる。個体識別が可能な場合は重要な判断基準となる。そして、あくまでも同時観察を原則とし、新たな群れについて群れと認定する

かどうか、どの群れからの分裂群か、を判断する。一時的なサブグループリングということも考えられる。確実なのは、もう一度しばらく経過してから、再確認することで確実性が増す。この場合も、同時観察が基本となる。

② 過去にサルの群れを確認し、群れ名も明らかにしている地域で、サルの群れを観察した場合について。(群れの重複防止)

下北半島に生息するサルの群れには、調査ごとに群れの確認がとれ、個体数も構成もほぼ正確に記録できる群れもいるが、全てがそういった継続確認できる群れとは限らない。2~3年前に確認した群れの生息地で、サルの群れを見た場合、ふつう2~3年前に確認した群れと推定するのが自然な判断だ。もちろん、個体識別していれば判断の材料となる。個体識別ができていない場合は、個体数や構成、近隣の群れの状態などで重複しないように努める。極力、重複しないように心がけることは、保護管理を実施する上で大変重要なことである。

その地域にすでに群れの存在を認定している場合、同時観察ができていない以上、サルの群れを見たからといって、新しい群れと軽々に判断できない。ただ、報告書には観察記録を残し、後々の判断の材料とする。

新しい群れだ、いや違うといった議論に陥りがちだが、真実はわからないことが多い。ただ、そこが問題なのではない。調査に取り組む姿勢や考え方の違いなのであり、当NPO法人は、より真実を求める上で、群れの重複を極力避けることを第一とし慎重に判断している。

新しい群れや群れの重複を避ける理由は、安易に群れの認定をしてしまうと、その結果が一人歩きし、猿害対策においても、下北のサルの生態調査においても、基礎データとなっていくまでも残っていくからだ。その後の調査で、判断ミスとわかった場合、その訂正にかなりの時間、労力、経費を費やさなければならない。そうした覚悟もなく、軽々しく群れの認定はできない。そこには慎重さが求められる。

③ 群れの名称について

1960年代下北半島には、A群、O群、B群、Z群、M群、I群の6群が確認されていて、その後U群が加わった。現在、確認している群れは、全てこの7群からの分裂群ということになる。ただ、群れの数も多くなり、生息地が山深いことなどで、継続して確認できていたとはいえない。かなり長期間、確認が取れていない間に、分裂を繰り返し、出身そのものまでがわからなくなった群れも多い。

群れの名前は、その群れの出身がわかり、いわば群れの歴史を示すものだ。以前、別の調査会が既存の群れ名を変更して新しい名前で報告したことがあった。下北のサルの実態を探る上で紛らわしくわかりづらいことを指摘され、既存の群れ名に直す結果となった。たとえ調査の体制や主体が変わっても、既存の群れ名を踏襲することは、

サル の 歴 史 や 現 状 の 分 析 、 猿 害 へ の 対 策 な ど 、 広 く 下 北 半 島 の サ ル と 関 わ る 上 で 、 根 幹 と な る こ と だ 。

群 れ 名 は 、 は っ き り と 分 裂 が 確 認 で き 、 2 つ ま た は 3 つ に な っ た 場 合 は 、 ア ル フ ェ ベ ッ ト の 次 に 数 字 を 加 え 、 出 身 が わ か る よ う に 工 夫 さ れ て い る 。 次 々 と 分 裂 し て い る 場 合 は 、 ア ル フ ェ ベ ッ ト と 数 字 を 交 互 に 組 み 合 わ せ て い る 。 た だ 、 分 裂 の 際 、 出 身 群 が 判 ら ない 群 れ は 、 発 見 地 点 や 流 域 を と っ て 、 ○○ 沢 の 群 れ と か 、 ○○ 山 の 群 れ と い っ た 地 名 、 河 川 名 な ど が つ い て い る 。 群 れ 名 は 、 各 地 域 の サ ル 調 査 会 が つ け て い る 。 ま た 、 調 査 を 実 施 中 、 群 れ 名 と 生 息 地 域 と の 関 連 が 分 か り や す く す る た め に 、 群 れ 名 を 愛 称 で 呼 ぶ こ と も あ る 。

以 上 、 3 点 の こ と に 留 意 し て 、 N P O 法 人 ニ ホ ン ザ ル ・ フ ィ ー ル ド ス テ ー シ ョ ン は 、 調 査 に 取 り 組 み 、 報 告 書 を 作 成 し て い る 。

II 調査結果

1. 夏季ニホンザル調査結果

◎目的

- ① むつ市脇野沢地区周辺に生息するO群由来の群れの数と、各群れの個体数や遊動域の解明、さらに周辺群との関わり方の解明
- ② むつ市川内地区から湯の川地区にかけての群れの数と、各群れの個体数、構成、遊動域の解明

◎調査概要

- ① 日程：2016年8月6日（土）～11日（木） 計6日間
- ② 天候：暑かったせいかわブの発生は多かった。また、全国的にも問題になっていたクマとの遭遇は、例年1パーティほどだが、今回は複数パーティが遭遇した。山の裏りでは、イチゴ類は実り始めたばかりだったが、クズの花はすでにかなり咲いていた。例年、イチゴはちょうど盛り、クズは咲きはじめるという状況に比べると、少し前後しているようにも感じられた。

8月6日 晴れて蒸し暑い

8月7日 晴れて蒸し暑い

8月8日 晴れて蒸し暑い

8月9日 曇りのち晴れ、暑い、台風5号が三陸沖を通過した午後から北風吹き始める

8月10日 晴れ 朝晩涼しい

8月11日 晴れ 朝晩涼しい

- ③ 調査員構成：初参加8名を含む22名
- ④ 調査地域：むつ市脇野沢地区・川内町男川流域、宿野部川流域、湯野川地区

◎調査結果

【 脇野沢地区 】

01-A 群 （発信器のついたサル（以下、テレメ個体）のいる群れ（テレメ群））

8/6 8:09 下の細間牧場北から北上、208 ピーク南で10:50 見失う。この時はテレメ個体の目視も電波による位置確認もしていない。15:20 源藤城集落北の国道を西へ渡るサルを7頭発見、源藤城集落の西を南下した。この時は電波により01-A群であることを確認した。

8/7 6:30 片貝集落付近の国道の西で発信があった。群れの確認はなかった。

8/8 群れの確認はなかった。

8/9 8:19 源藤城集落北で国道を西へ渡り、片貝の伐開地を南下した。15:00 頃細間林道を南下し、西へ向かって 16:40 下細間林道を渡った。細間林道を渡るときに 5 頭のアカンボウを含む 37 頭をカウントし、テレメ個体も確認した。

8/10 午前中、ニノワタリ沢から発信があった。群れの確認はなかった。

8/11 8:35 下の細間牧場から東へ移動、9:05 には見失った。この間アカンボウ 2 頭を含む 35 頭をカウントした。10:20 細間林道の牧場分岐より東で南へ渡るオトナ性不明 1 頭を目視していて、群れも南側へ渡った可能性がある。この日はテレメ個体の確認はなかった。

01-A 群のカウント結果

8/9 14:45~15:30 細間林道を南へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	5	8	2	15
ワカモノ	-	1	2	3
5~6才	-	-	1	1
4~5才	-	-	1	1
3~4才	-	-	1	1
2~3才	-	-	7	7
1~2才	-	-	4	4
アカンボウ	-	-	5	5
合計				37

※ +αはない。

※ 識別個体

オトナメス；テレメ付（濃緑の首輪、遠目では黒に見える）

確認日 8/6、8/9

01-B 群

8/6 12:50 穴間林道にいた A87-B 群の北側斜面から現れた。その後林道沿いを東へ向い、17:00 青石林道分岐付近まで達した。

8/7 9:10 下の細間牧場北端から北の尾根を登って行った。12:05 谷からの声を最後に見失った。アカンボウ 1 頭を含む 4 頭が最大目視だった。

8/8 14:50 上の細間牧場南から南下し 17:00 青石林道へ達した。オトナメス 4 頭を含む 18 頭をカウントした。

8/9 5:15 穴間分岐から西進したが、7:00 に一旦見失う。9:45 青石林道で東進するのを

発見、下の細間牧場東の伐開地で見失った。オトナメス 11 頭、アカンボウ 4 頭含む 32 頭をカウントした。

8/10 9:10 下の細間牧場の東を北上、12:00 頃面木林道南の大きな伐開地を通過、林道沿いを西に向かい、16:00 には 205 ピーク北の谷に入った。この日は殆ど停滞なし、先頭から最後まで 400m ほど伸びた状態で移動していた。13:00 過ぎ、下面木林道を西へ渡る際にアカンボウ 2 頭を含む 34 頭をカウントした。

8/11 面木林道周辺を調査したが、情報はなかった。

01-B 群のカウント結果

8/10 13:10~13:35 下面木林道を西へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	3	6	1	10
7~8才	-	1	-	1
5~6才	2	1	-	3
4~5才	-	1	5	6
3~4才	-	-	3	3
2~3才	-	1	4	5
1才	-	-	4	4
アカンボウ	-	-	2	2
合計				34

※ 8/9 のカウントは全部で 32 頭だが、オトナメス 11 頭、アカンボウ 4 頭を数えている。単純に足すことはできないが、+α はまだかなりあり、印象としては 40 頭以上いると推定される。

※ 識別個体はなし。

02-A 群

8/6 9:55 武士泊林道から 13:30 蛸崎越沢の水源池公園東の斜面を登ったところで見失った。海峡ラインを渡る際、41 頭を数えた。

8/7 9:10~9:35 水源池公園の堰堤でオトナメス 3 頭を含む 6 頭を確認した。

8/8 8:43 水源池公園堰堤から西へ向かい、武士泊林道と海峡ラインの間を北上、15:06 武士泊林道の分岐まで移動した。海峡ラインでアカンボウ 4 頭を含む 43 頭を数えた。

8/9 12:45~14:00 海峡ラインの 321 ピーク南で東へ渡った。アカンボウ 5 頭を含む 32 頭だった。この間の 12:54 武士泊林道の分岐北で、林道を西へ渡るサル 5 頭も確認されている。

8/10 8:16 蛸崎越沢入口から海峡ラインと武士泊林道の間を北上、18:20 頃M字カーブまで移動した。蛸崎越沢入口の国道で、アカンボウ 10 頭を含む 41 頭をカウントした。

8/11 5:48M字カーブの北東角で谷へ下り、海峡ラインと武士泊林道の間を南下、13:00 武士泊林道入口付近で西へ向かった。目視は 11 頭が最大であった。

02-A 群のカウント結果

8/10 8:20~9:40 蛸崎越沢入口の国道を西へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	4	14	1	19
ワカモノ	-	1	1	2
4~5才	1	-	-	1
3才	1	1	1	3
2才	1	-	-	1
1才	1	2	2	5
アカンボウ	1	2	7	10
合計				41

※ 最大カウントは 8/8 の 43+ α 頭。

※ 同数カウントした 8/6 はワカモノ以上のオス 5 頭、メス 15 頭、アカンボウ 9 頭を含む。

※ 識別個体

8/6 オトナオス? ; 鼻の中央が欠けている。

8/8 オトナオス ; 左の鼻先が欠けている。

8/10 オトナメス ; 左手ケガ

02-B 群

8/7 12:51 海峡ラインの 321 ピークの西斜面にて、武士泊林道と海峡ラインの間を登っていく 4 頭のサルを発見、3 頭はワカモノメスだった。13:03 に見失った。

8/10 男川沿いの滑川分岐の西で 8:45 に発見、群れは上流へ向かった。

02-B 群のカウント結果

8/10 10:45~10:55 男川流域の滑川分岐の西 500m 左岸

	オス	メス	年齢別計
オトナ	2	7	9
ワカモノ	1	-	1

4~5才	1	1	2
2~3才	2	4	6
1~2才	-	1	1
アカンボウ	-	3	3
合計			22

※ +αは少ない。

※ 識別個体 8/7 ワカモノメス；左肩にハゲあり。

A87-A 群

8/6 朝、滝山-九艘泊線の下のヘアピンカーブ付近にいて、道路沿いを上がり、東側の尾根を東側（瀬野側）に越えた。

8/9 16:50 滝山-九艘泊線のサル石付近にいた。

8/10 7:40 頃 8/6 に尾根越えた地点にいた。10:00 頃電波発信器で位置を確認したところ、瀬野牧場の奥から発信があった。

※ カウント、識別個体はなし。

A87-B 群

8/6 8:20 中細間歩道入口の東から北上、10:28 穴間林道を北へ渡り、周辺で採食や休息をした。12:30 急に南下を始めたが、これは 01-A 群が北から出現したためと考えられる（01-A 群の項参照）。15:17 細間林道から 17:00 峠付近まで林道沿いを移動した。

8/7 14:08 細間林道穴間分岐で発見、林道を西へ渡るところをカウントした。

8/8 朝、中細間歩道入口で確認。この日は追跡していない。

8/9 7:30 滝山-九艘泊線の峠付近で確認。この日も追跡はせず。

A87-B 群のカウント結果

8/7 14:08~15:15 穴間林道入口を西へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	3	7	-	10
ワカモノ	1	-	3	4
コドモ	-	-	6	6
1才	-	-	4	4
アカンボウ	-	-	4	4
合計				28

※ +αほとんどなし、識別個体なし。

A2-84A 群

8/7 5:30 に細間林道入口付近で群れを発見、南へ渡るところをカウントした。

A2-84A 群のカウント結果

8/7 5:40~6:20 細間林道入口付近を南へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	2	6	-	8
ワカモノ	2	-	3	5
5~6才	-	-	1	1
3~4才	-	-	5	5
1~2才	-	-	4	4
アカンボウ	-	-	3	3
年齢不明	-	-	1	1
合計				27

※ +αあり。

※ 識別個体

8/7 オトナメス；電波発信器が付いている

A2-84b 群

8/8 8:33 寄浪の墓所付近で発見、昼頃までかけてカウントした。

A2-84b のカウント結果

8/8 8:33~12:00 寄浪の墓所奥を北へ移動するとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	1	7	-	8
ワカモノ	1	3	1	5
5~6才	-	1	-	1
4~5才	2	1	-	3
3~4才	-	-	3	3
2~3才	1	-	3	4
1~2才	-	-	2	2
アカンボウ	-	-	2	2
合計				28

※ +αいても2~3頭ぐらい、識別個体なし。

A2-84c 群

8/8 電波発信器の確認のみで、芋田南東の谷の奥から発信があった。

8/9 電波発信器の確認のみで、寄浪・蛸田間の尾根を北西に移動する発信があった。

8/11 電波発信器の確認のみで、蛸田西から発信があった。

※ カウント、識別個体はなし。

A2-85 群

8/7 朝、小沢の薬師堂西で発見、群れは西へ向かっていて深石林道を越え、昼過ぎに口広林道を渡って、ヌイド沢へ向かったと思われる。

A2-85 群のカウント結果

8/7 12:55~13:30 口広林道入口から500m北を西へ渡るとき

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	5	12	-	17
ワカモノ	2	2	2	6
5~6才	-	-	2	2
4~5才	-	-	2	2
3~4才	-	-	5	5
2~3才	-	-	6	6
1~2才	-	-	4	4
アカンボウ	-	-	8	8
年齢不明	-	-	2	2
合計				52

※ +αあり。

※ 識別個体はなし

男川群

8/10 14:20 男川林道から小平沢林道沿いを西に移動する群れを発見した。

男川群のカウント結果

8/10 14:20~15:30 男川林道の小平沢林道分岐付近

	オス	メス	性不明	年齢別計
オトナ	2	7	3	12
ワカモノ	1	1	-	2

4~5才	-	-	2	2
3~4才	-	-	1	1
2~3才	-	-	2	2
1~2才	-	-	2	2
アカンボウ	-	-	5	5
年齢不明	-	-	1	1
合計				27

※ + α あり。

※ 識別なし。

宿野部川流域の群れ（男川群または02-B?群の分派?）

8/11 10:00 宿野部川上流部の金八沢で発見、メス2頭を含む6頭を確認した。姿は10分ほどで見えなくなったが、声は12:33に目視地点から750mほど北まで確認できた。 6頭+ α

ハナレザル

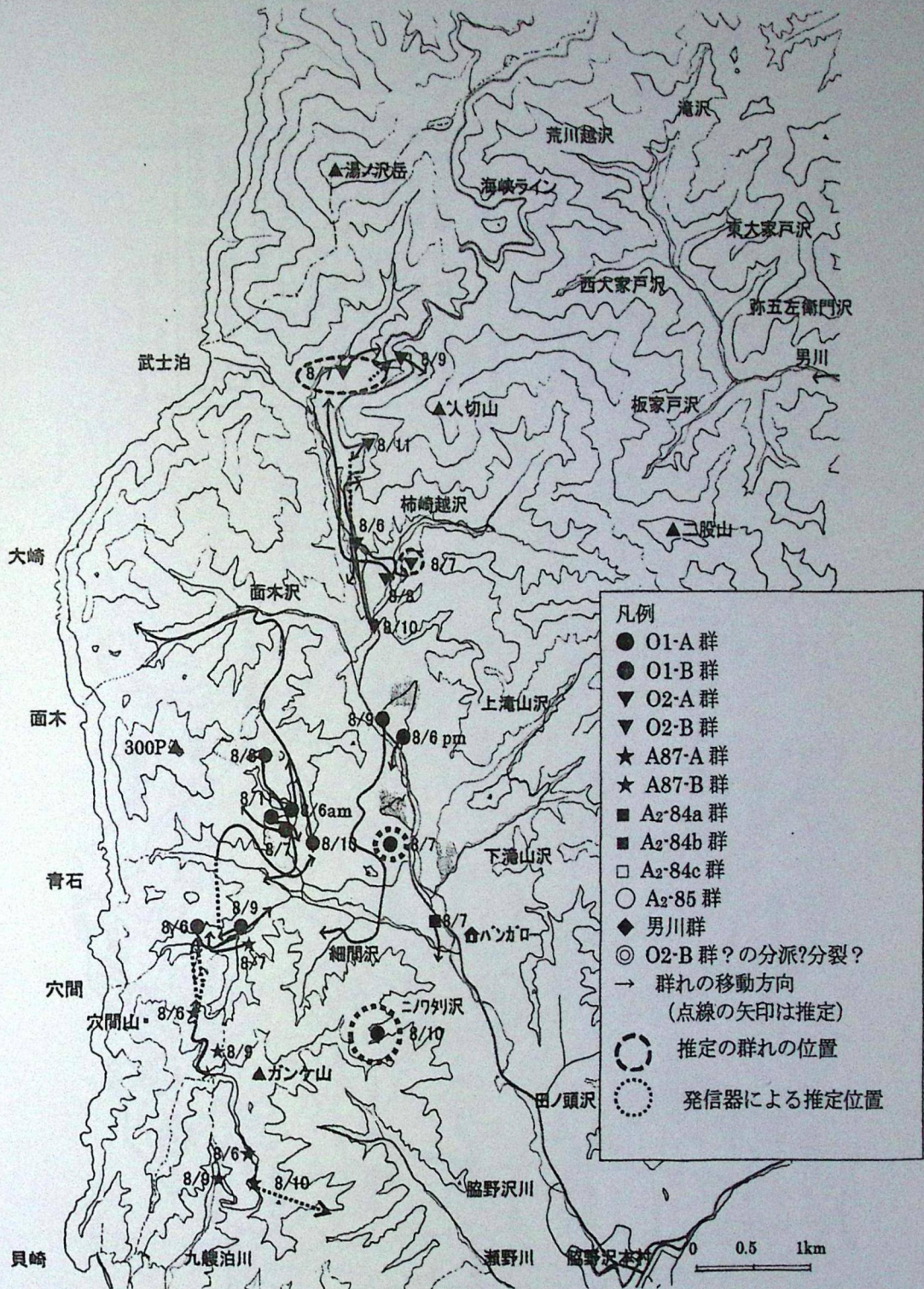
8/ 8 16:40 オトナオス；海峡ラインのアンド山北東から道路沿いを南下

8/10 18:14 性不明2頭；蛸崎越沢入口付近

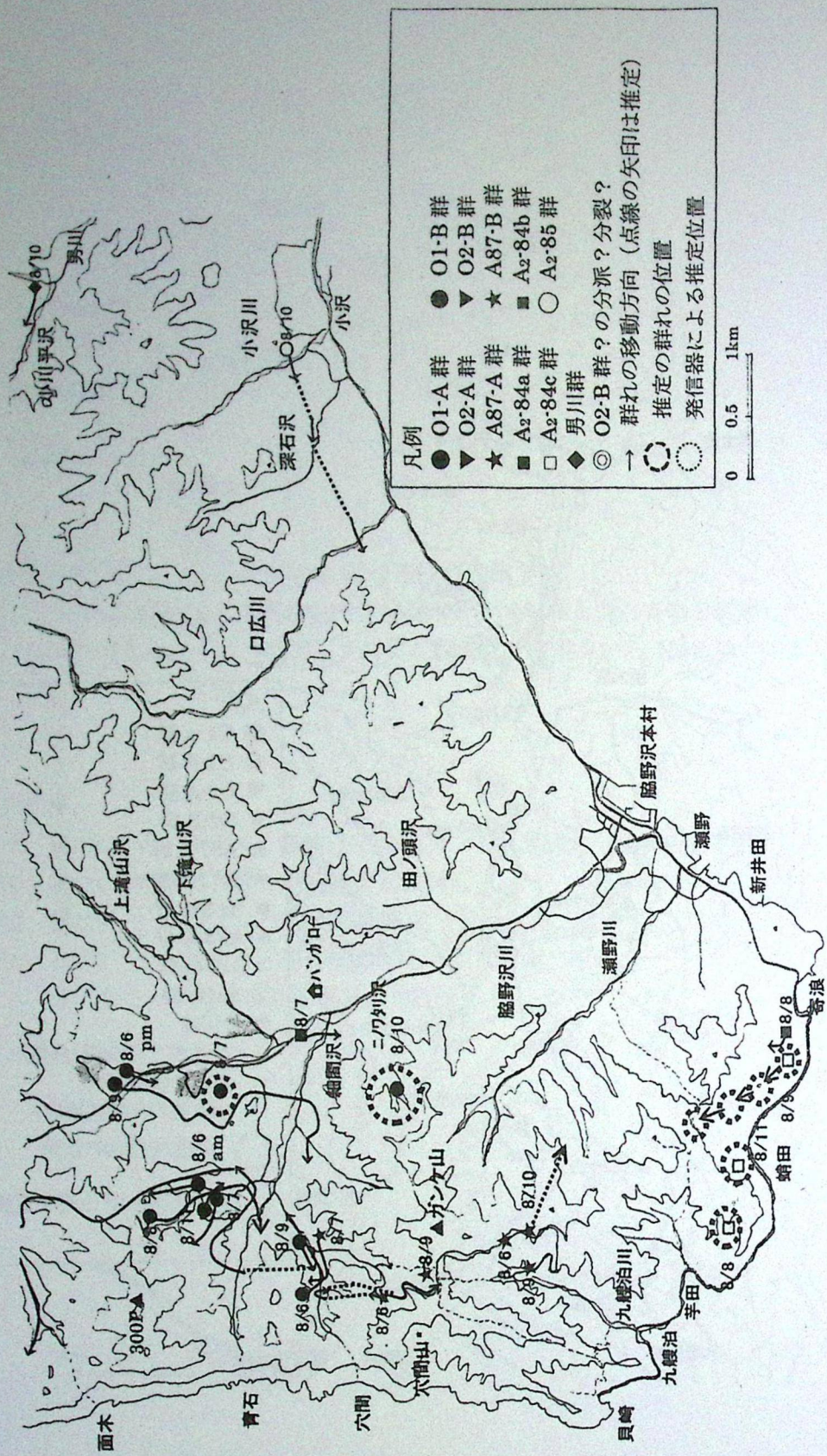
8/10 18:19 3~4才オス；源藤城集落北で国道を西へ渡る

8/10 18:23 オトナオス；源藤城集落北で国道を西へ渡る

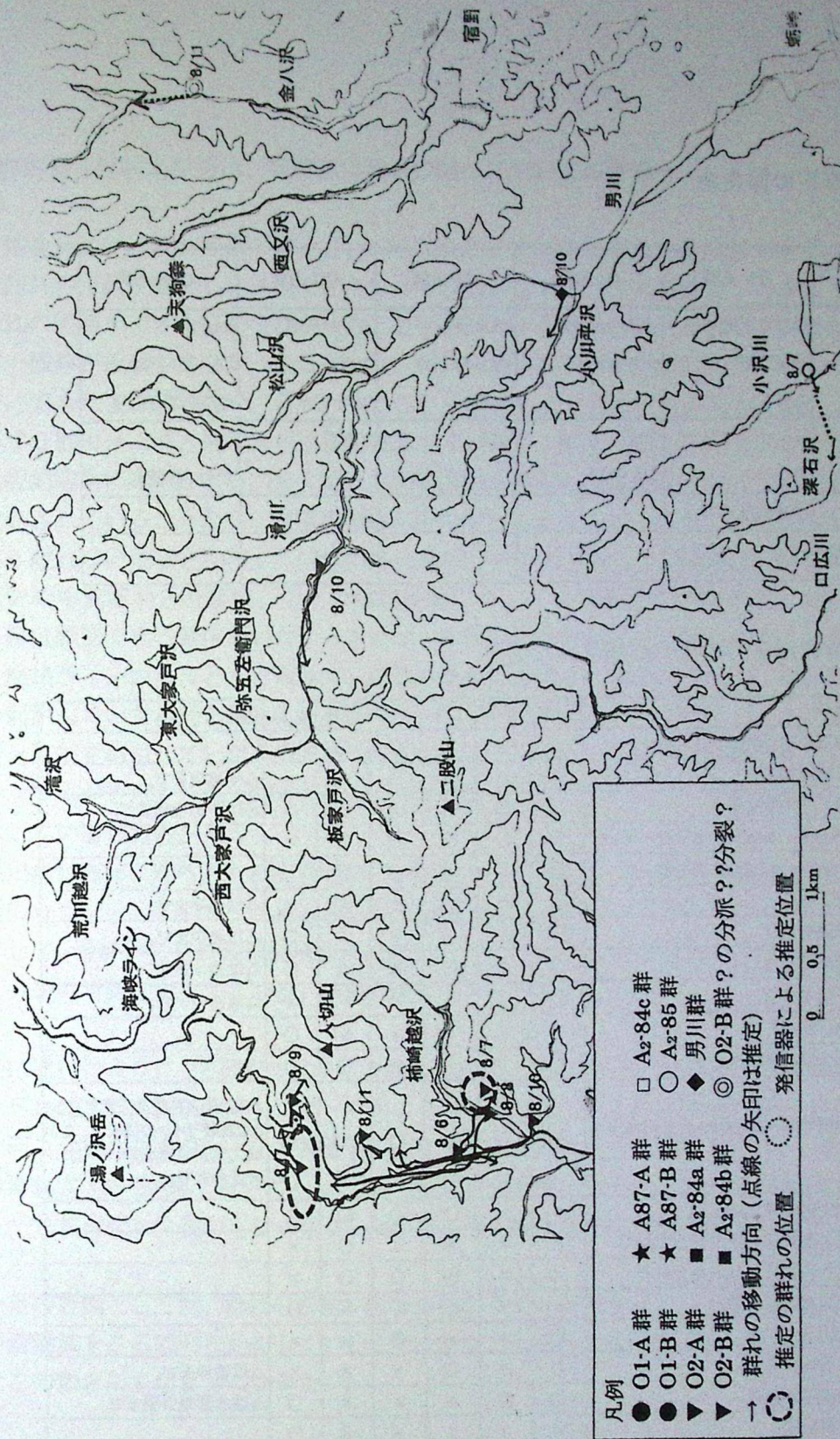
※ 下3つの情報は同じ個体の可能性あり。



脇野沢地区のサル情報 (国道 338 号沿い)



脇野沢地区のサル情報（脇野沢本村から小沢地区）



脇野沢地区のサル情報 (脇野沢川・男川・宿野部川)

調査中の採食物

群名	O1-A群	O1-B群	O2-A群	A87-B群	A284-b群
実	ウワミズザクラ イチゴ類 ニガキ	ツノハシバミ クマヤナギ	サルナシ? クロイチゴ? ニガキ	クマヤナギ ニガキ ツノハシバミ	ニガキ ツノハシバミ ウワミズザクラ
葉		クズ カエデ類	クズ	イネ科	クズ ササ(新葉)
茎	オオハナウド			ススキ	
その他				ヨコエビ	

脇野沢地区での各日の調査した場所

	場所	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	備考
細間沢流域	細間林道(穴間林道分岐まで)	○	○	○	○	○	○	
	下細間林道	×	△	×	△	×	×	△は途中まで。
	(上・下)細間牧場	○	○	○	△	○	△	△は下の牧場まで。
	(九艘泊-滝山線)牧場分岐~滝山	○	○	○	○	○	×	
	(九艘泊-滝山線)穴間分岐~峠	○	×	×	○	○	×	
	青石林道	△	△	○	△	×	×	△は途中まで。
面木沢流域	穴間林道	○	△	○	×	×	○	△は途中まで。
	面木沢林道	○	△	○	△	△	○	△は途中まで。
	下面木林道	○	×	△	×	×	×	△は途中まで。
	滝ノ沢林道	○	×	×	×	△1	○	
面木林道伐開地	○	×	×	×	○	○		
脇野沢川流域	海峡ライン(長右衛門・大荒川林道入口まで)	△1	○	△2	○	△3	△4	△1は湯ノ沢岳入口まで、△2は海峡ラインの碑まで、△3は大荒川林道含む。△4は流汗台まで。
	武士泊林道(分岐まで)	×	×	○	○	○	○	
	武士泊林道分岐~武士泊海岸	×	×	×	×	○	×	
	武士泊林道分岐~佐井村界	×	×	○	○	○	×	
	片貝電柵西伐開地	×	×	○	○	×	○	
	滝山西伐開地	○	×	×	○	×	×	
その他	源藤城林道	○	△	○	×	×	×	△は途中まで。
	蛸崎越沢林道	○	○	△	×	×	○	△は水源地公園まで。
	宿野部川	×	×	×	×	×	○	
	男川	×	×	×	×	○	×	

—0 群由来 4 群および男川、宿野部川流域の群れについての考察—

全体を通して、群れの数で言うと、0 群由来だけでなく A 群由来の群れも含め、目標以上の群れの位置を確認し、目視できたすべての群れでカウントもできた。しかし、連続して群れの追跡ができた日が少なかったこと、識別できる個体がほとんどなく、また連続して同一個体が観察できなかったことから、テレメ個体のいる 01-A 群以外は群れの識別が完全にできたとは言い難い。そういったことを踏まえて今回の結果を考察する。

まず 0 群由来 4 群と男川群の位置を確認する。01 の 2 群は一方に発信器がついているので比較的容易に識別できる。01-A 群は、源藤城林道周辺から調査期間中に 2 回南下するのを観察されていることから、国道東側の利用の増加が考えられる。そして国道の西側ではあまり離れない地域を利用している。01-B 群は、昨年度推定した遊動域を裏付けるべく、細間沢の中流域から上流域、上下の細間牧場、そして面木林道までを利用していた。02 の 2 群は識別できる個体がいなかったため、昨年の結果を踏まえて群れを推定した。02-A 群は海峡ラインからほとんど離れず、南北の細長い範囲を行き来していた。その範囲は昨年利用していた場所とほとんど変わらない。注目すべきは 02-B 群で、これまでも男川最上流部を利用していたが、今回は中流域、これまでで最も東での発見となった。海峡ラインでもおそらくこれと同じと思われる群れが見つまっているが、遊動域は少し東へシフトしている可能性がある。

男川群は昨年、夏冬とも調査期間中には観察されていないが、男川流域の松山沢で冬調査前にカウントしており、今回も近い場所で発見されている。

そして、最終日に宿野部川流域金八沢で見つかった小規模の群れだが、02-B 群の分派或いは分裂の可能性を考えている。根拠は次に述べる個体数にある。

先に述べたように、今調査では多くの群れでカウントができた。昨年の結果と比較する。それぞれ増加傾向にある中で、唯一昨年より数を減らしているのが 02-B 群だった。それも今回この群れをカウントした調査員によると、数え漏れは殆どないという。一方、金八沢の群れが 10~20 頭ぐらいだとしたら、今回の 02-B 群に足すと、ちょうど昨年の規模になる。まだ分派か分裂かもはっきりしなため、様々な可能性を考慮する必要がある。

今後の課題としては、群れの移動が線につながるような調査を行うこと、それぞれの群れの遊動域をさらに明らかにしていくこと、またここ数年、生息域が東へ拡大しているので、この動きにも注目していきたい。

昨年度と今回のカウント結果の比較

	2015		2016		備考
	全カウント数 (頭)	アホウ数 (頭)	全カウント数 (頭)	アホウ数 (頭)	
O1-A群	33+ α	7	37	5	
O1-B群	17+ α	3	34+ α	4	2015年は+ α 多数。2014年は34+ α 。
O2-A群	36	9	43+ α	10	
O2-B群	38+ α	5	22+ α	3	
男川群	21+ α	3	27+ α	5	
宿野部川の群れ			6+ α	?	

【 川内地区 】

例年と同じく、広範囲を車でパトロールし、多くの林道に入り、群れの発見に努めた。

《 調査地域 》

- 8月6日 安部城林道、畑集落周辺、湯野小川林道、カモシカライン（町村境まで）
- 8月7日 畑集落～新助川林道入り口まで、湯野小川林道、中川開拓、和白沢林道
- 8月8日 畑集落～湯の川温泉まで、新助川林道、和白沢林道、鍵掛沢林道、安部城林道、砥石沢林道（三九郎林道との分岐まで）
- 8月9日 カモシカライン（町村境まで）、砥石沢林道（三九郎林道終点まで）、鍵掛沢林道、和白沢林道、矢櫃林道
- 8月10日 カモシカライン、砥石沢林道、和白沢林道

《 群れ毎のまとめ 》

◎ M2-b 群

- 8月7日 9:54 中川開拓内でテレメの電波を受信（個体名イチゴ）し、M2-b群と判定、その後群れを確認した。群れは川内川右岸から左岸に渡り、北へ向かう群れを畑集落と川内ダムの中の県道でカウントした。構成は取れなかったが個体数は65頭（内9Baby）であった。

- 8月8日 10:00 旧湯野川小学校と畑集落の間で、テレメの電波（個体名イチゴ）を受信、その後群れはカモシカラインと並行に北西方向に向かう。14:30には旧湯野川小学校の対岸で目視、その後15:18 湯野川温泉かじかの湯の対岸の谷の方向から受信したのを最後にロストした。
- 8月9日 10:49 湯野川開拓奥のカモシカライン上で群れに遭遇、目視する。この時14頭+ α を数える。群れの進行方向の砥石沢林道で待ち受けた。群れは砥石沢林道に入ると林道上を奥（西方向）に進み、その後北西方向に消えた。サルと同一林道上にいたので正確な数ではないが32頭を数えた。再度群れがカモシカライン上に現れるのを期待し町村境方向へ向かうが群れが現れることはなかった。
- 8月10日 10:53 前日佐井村との境界方向へ向かったと思われた群れを砥石林道入り口と目名川林道の入り口の中間地点のカモシカライン脇で目視しテレメの電波を確認した。（個体名イチゴ）。この時点ですでにカモシカラインの反対側にもサルの鳴き声が聞こえていたのでカウントはあきらめた。13:50 発信機個体もカモシカラインをわたっており14:20には薬研方向に消えていった。

◎ 安部城北の群れ

- 8月6日 12:22 大滝と発電所間の県道カモシカラインの脇でサルを発見しカウントした。構成はとれなかったが、65頭（内8Bab）を数えた。群れはその後河畔林の中を移動しカウント終了後見失う。

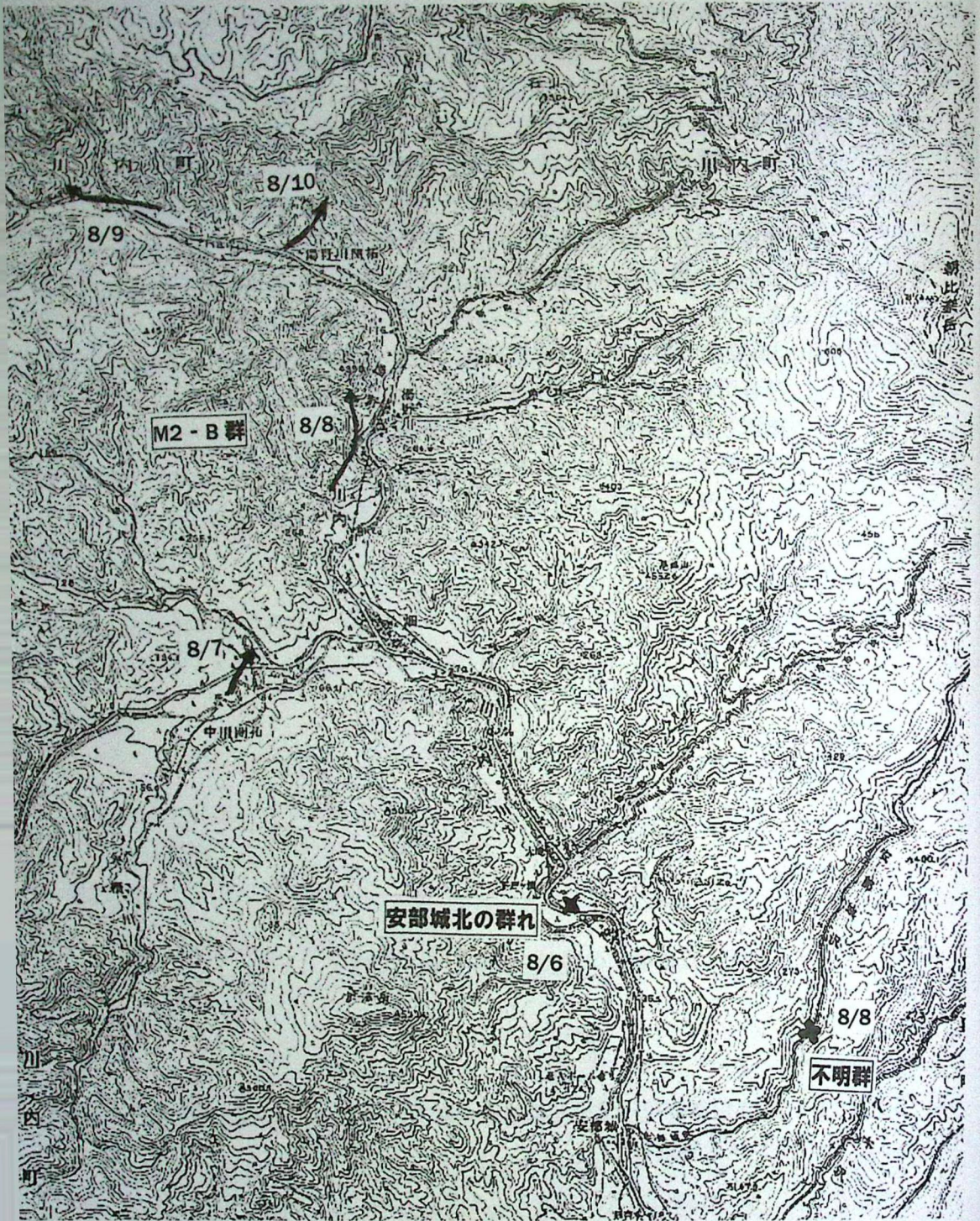
◎ 安部城林道で発見した群れ

- 8月8日 12:49~14:13 安部城林道入口から、2.3 km地点でサルが林道を渡るのをカウントした。この時、林道を車で走行中であったことから、発見時群れの先頭から見ていたのか確証はない。24頭+ α （内2Baby）であった。構成はとれなかった。

米 上記「安部城北の群れ」と同一の可能性大

◎ オスグループ

- 8月10日 9:49 旧湯野川小学校と畑集落の間で、A♂1頭、YA♂3頭、計4頭のオスグループを確認した。



湯野川地区のサル情報

2. 事前調査

《 脇野沢地区 》

◎ A87-A 群

【中山】

2016年12月本調査の前の数日間の観察から

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	6	19		25
ワカモノ	3			3
5歳	1			1
4歳	2	1		3
3歳	2	2		4
2歳	3	4		7
1歳	5	2		7
Baby	4	6		10
計	26	34		60

60頭 (内10Baby)

◎ A87-B 群

【松岡】

i 構成とれず

2016年9月21日

九艘泊 - 滝山線の中細間入口
15頭 + α (A♂1 2Babyはいる)
米 + αはまだまだいる模様

ii 構成とれず

2016年11月18日 九艘泊川左岸を大きく移動の
ちにA87A群に追われていたことが判明

20頭ぐらい

(下唇が垂れさがるほどの大けがをしたA♂)

◎ A2-84c 群

2016年12月3日

蛸田地区集落周辺

【松岡】

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	2	2		4
ワカモノ		1		1
1~2歳			1	1
1歳			1	1

Baby			1	1
計	2	3	3	8

8頭 (内 1Baby)

◎ O1-A群

【松岡】

構成とれず

2016年11月22日 細間林道 土捨て場 北から南へ移動

43頭 + α

A♂5 4Babyは確認

◎ O1-B群

【松岡】

i 構成とれず

2016年9月20日 九艘泊-滝山線 細間牧場入口

20頭 + α (A♂2、2Babyは確認)

ii 構成とれず

2016年11月29日 瀬野牧場牛小屋前

15頭 + α

◎ O2-A群

【松岡】

構成とれず

2016年11月13日 田ノ頭林道入口

20頭 + α (A♂2 2Babyは確認)

米 鼻に縦に切れ込みのあるA♀がいる

3. 冬季ニホンザル調査結果

A 大畑・薬研地区

◎ 調査の概要

2016年12月21日から12月26日の6日間、ただし、12月20日の調査員集合日も事前に調査を実施した。15名の調査員が大畑川流域ならびに木野部峠、関根地域を中心に調査を実施した。積雪の状況は、山深い林道ならびに高所には積雪があったが、各林道には手掛かりとなる足跡が残るほどの積雪はなかった。21日と22日は降雨の中の調査、23日以降は天気も回復し晴れの日が続いた。

林道及び歩道の踏査を主体とし、直接観察に心がけ、発見時には追跡し、群れの個体数・構成の把握に努めた。また、足跡、フン等のフィールドサインの情報も調査結果に反映させた。

◎ 調査結果 調査日、ならびに各パーティ毎に報告する。

12月20日

- ・ 奥薬研のゲートまでと小目名林道深沢より奥1km地点までを車でパトロール。12:45二枚橋小学校南の畑で6頭(♂1、♀4、1歳♂1)を確認、テレメよりI2-A2群と断定。15:30まで観察。
- ・ 11:15~11:35 大畑町堂近地区の農道で東から西へ移動するKO-2群(イロハの群れ)16頭+αを観察。+αはまだまだいる。また、15:46~16:20大畑町小目名地区羽色神社西でKO-1群(ハイロの群れ)23頭+αを観察、群れは東から西へ道路沿いに移動していた。

12月21日

- ・ 12:00~12:30大畑道地区の畑でI2-A2群4頭を観察、その後、湯ノ股林道を踏査、4kmほど入った林道上に古い複数頭の足跡を発見する。
- ・ 太兵衛川林道、右衛門四郎川林道、弥一郎沢林道を車でパトロール、仁助沢林道を踏査するもサル情報なし。
- ・ 釜ノ沢林道と大畑-佐井線、烏沢、三太郎沢、下獅子沢を車でパトロール並びに踏査。釜ノ沢林道のあすなら橋100m北で3~4頭分の足跡。釜ノ沢林道恐山まで9kmポイントでA♂1と3頭分の足跡。三太郎林道にA♂1頭の足跡、下獅子沢に26頭分の足跡。
- ・ 囲井沢林道を踏査。囲井さわの分岐北で2~3日前の西から東へ横断する26頭分の足跡。また、15:00~15:30太兵衛川林道との分岐の橋で5頭+α(♂4、♀1)を目撃。道路を南へ移動した。

- ・階子沢林道（重兵衛沢入口から川内町との峠）を踏査したが、サル情報なし。
- ・上狄林道を踏査。10:25 上狄林道を 1 kmほど入った右岸でグルーミングしているA♀とA♂を目撃、鳴き声も確認。34 頭分の足跡も確認、北から南に横断していた。また、上狄林道分岐よりも 1.4 km西で 3~4 日前のサルの群れの足跡複数頭分。
- ・仁部沢林道、長次郎林道を踏査。仁部沢林道で新しいサルの群れの足跡、長次郎林道にも新しいサルの群れの足跡を発見。上記、上狄林道の 34 頭分の足跡と同一だろう。

12月22日

- ・8:45~10:30 大畑道地区の畑周辺のスギ林で I2-A2 群 4 頭を確認。その後、大畑川沿いの塘路、農道で観察。10:40~12:50 大畑町赤坂地区で KO-2 群（イロハの群れ）26 頭+αをカウント。11:05~15:10 小目名地区西の貯木場対面の道路沿いで KO-1 群（ハイロの群れ）を観察。道路周辺に広がる最大 29 頭を（内 A♂2、2Baby）カウント。
- ・三太郎林道、新右衛門林道、下および上近藤沢林道を車でパトロールならびに踏査。三太郎林道に古いサルナシの樹皮の食痕。新右衛門林道に 1 頭分の東から西へ向かう新しい足跡を確認。
- ・仁部沢林道と長次郎林道を踏査。長次郎林道入口から 30m入ったところらに北へ向かう 1 頭分の足跡。
- ・上狄林道を踏査。昨日のサルの足跡以外にはサル情報なし。
- ・重兵衛沢林道を踏査。重兵衛沢林道、ピーク 365 の北東地点の林道を左岸から右岸へ移動する 24 頭分の足跡を確認。
- ・二階滝林道、仁助沢林道、弥一郎沢林道を車でパトロール並びに踏査。仁助沢林道で南から北へ向かう 3 頭分の足跡をかくにんする。

12月23日

- ・下獅子林道と新右衛門林道、弥一郎林道を車でパトロール並びに踏査。9:27 大畑-佐井線の佐井への分岐より東 300m地点でサルの群れを目視、下獅子沢方向へ移動する 24 頭（内 4Baby）を確認する。14:25 まで観察。
- ・囲井沢林道を踏査。10:40 囲井沢ピーク 503 の南西地点の林道で鳴き声を聞き、すぐに姿を目撃する。サルの群れは南西へ移動、階子沢林道側まで移動、13:40 まで観察。20 頭以上はいる模様、左鼻が欠けている A♂がいる。30m ぐらいで逃げず、A♀には 5mまで近づいてきたものもいた。
- ・うぐい滝林道を踏査。サル情報なし。
- ・大畑-佐井線の県道、奥葉研のゲートまでを車でパトロール。9:20~9:55 小目名地区の羽色神社西の県道沿い、北側で 9 頭+α（A♂2、A♀2、YA2、2~3 歳 1、1~2 歳 2）のサルの群れを目視。9:45~13:30 KO-1 群（ハイロの群れ）をゴネ沢東 200

m地点で観察、県道沿いに西へ移動している。3Babyを含む18頭まではカウントしたがカウント漏れがある。10:10~11:50 KO-2群（イロハの群れ）を大畑町堂近地区の農道を南から北へ横断する55頭+ α （内3Baby）をカウントする。

- ・上および下近藤沢林道を踏査。12:50 上近藤沢のピーク 296 北の谷あいではサルと出会う。14:00 まで観察し、9頭+ α をカウント。鳴き声などから20頭ぐらいはいる模様。
- ・西ノ股林道、釜ノ沢林道、烏沢林道を車でパトロール並びに踏査。サル情報はなし。
- ・湯ノ股林道を車でパトロール並びに踏査。千穂沢出合い付近で古い1~2頭分の足跡、また、ピーク 501.1 北の林道で新しい1頭分の足跡、東から西へ向かっていた。
- ・薬研野営場から入る林道を佐藤平林道との出会いを通り、大西股林道へ抜ける林道を踏査。佐藤平林道で送電線を越えた付近で北に向かう足跡1頭分を確認する。

12月24日

- ・薬研温泉周辺の自然歩道、釜ノ沢林道を中心に踏査。県道と釜ノ沢林道の出会い、紅葉橋付近で5頭分の足跡、西へ向かっていた。
- ・西股沢林道、大西股沢林道、烏沢林道を車でパトロール並びに踏査。サル情報はなし。
- ・釜ノ沢林道少し、大畑-佐井線弥一郎沢出合いまで、下獅子林道少し、二階滝林道を車でパトロール並びに踏査。サル情報なし。
- ・下および上近藤沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・上近藤沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・三太郎沢林道、下獅子沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・新右衛門沢林道、弥一郎沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・階子沢林道を踏査。サル情報なし。

12月25日

- ・湯ノ股林道、薬研温泉周辺の自然歩道、うぐい滝沢林道、釜ノ沢林道、小目名林道を車でパトロールならびに踏査。サル情報なし。
- ・西ノ股沢林道、大畑-佐井線弥一郎沢出合いまでを車でパトロールならびに踏査。サル情報なし。
- ・新右衛門沢林道、三太郎沢林道を踏査。三太郎林道の奥三太郎沢橋付近に北に向かう1頭分の足跡を確認。
- ・上近藤沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・下近藤沢を踏査。下近藤沢のピーク 315 西の林道を西から東へ横切るサルの群れの足跡。11頭+ α をカウント。ラッセルした跡が3本あり、複数が移動した模様。30頭ぐらいはいると思われる。
- ・弥一郎沢林道を踏査。弥一郎沢林道上部ピーク 388 の北の林道上に14頭分の足跡。

- ・階子沢林道の重兵衛沢出合いまでを踏査。10:52 重兵衛沢入口から階子沢林道にかけて 29 頭分の足跡。東から西へ向かっていた。12:30 重兵衛沢入口の西の谷で 2 頭のサルを目視。谷の奥から複数頭の鳴き声を確認する。

12月26日

- ・脇野沢地区への移動時、8:57 佐助川地区の国道沿いで I2-A1 群（電波で確認）9 頭 + α （1Baby を含む）を目視。また、10:40 大畑町八幡湯坂地区西で I2-A2 群（電波で確認）6 頭を観察する。

《群れ毎のまとめ》

I2-A1 群（キノップ A 群）

2016年12月26日

大畑町佐助川地区の国道 279 号の道路沿い

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	2	2		4
4 歳			2	2
1~2 歳			2	2
Baby			1	1
計	2	2	5	9

9 頭 + α (内 1Baby)

I2-A2 群（キノップ B 群）

2016年12月20日

大畑町二枚橋小学校南の畑

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	1	4		5
1 歳	1			1
計	2	4		6

6 頭

Ko-A 群（イロハの群れ）

2016年12月23日 10:10~11:50

堂近地区 農道横断時

構成とれず

55 頭 + α (内 3Baby)

Ko-B1 群 (ハイロ A 群)

2016 年 12 月 22 日 13:30~15:10 葉色沢出会い近くの貯木場

構成とれず

29 頭 + α (内 2Baby)**Ko-B2 群 (ハイロ B 群)**

2016 年 12 月 23 日 9:20~9:55 小目名地区羽色神社西 県道沿い

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	2	2		4
ワカモノ			2	2
2~3 歳			1	1
1~2 歳			2	2
計	2	2	5	9

9 頭 + α

米 Ko-B 群 (ハイロの群れ) については、前年度に不明群として扱った 9 頭 + α の群れが今回も全く同様の場所、個体数として観察された。観察場所から Ko-B 群の分裂群 (ハイロ B 群) とする。ただ、地域を少し広く考えると、I2-C 群、I3-A 群と関連する群れの可能性も捨てきれない。ただ、現状からは Ko-B 群の分裂群とするのが自然の流れと思われる。

I3-A 群

2016 年 12 月 25 日 下近藤沢ピーク 315 西

11 頭 + α 【足跡】

+ α はかなりいる模様。というのは雪上をラッセルした跡が 3 筋はあり、複数頭が移動していることが読み取れたからだ。

M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)

2016 年 12 月 25 日 弥一郎沢林道上部 桂平南の林道

16 頭 + α 【足跡】

《 構成 》 2016 年 12 月 23 日 上近藤沢ピーク 290 西

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	1	2		3
4 歳			1	1

3~4歳			1	1
2~3歳			2	2
1歳			2	2
計	1	2	6	9

9頭+ α

米 + α はまだまだいる模様。雰囲気では20頭ぐらいか?

M2-A2 群 (上狄川の群れ)

2016年12月21日 上狄川林道 ピーク318南の林道を北から南へ横断
34頭+ α 【足跡】

M2-A3 群 (囲沢の群れ)

2016年12月25日 階子沢林道を東から西へ横断

29頭+ α 【足跡】

米 2016年12月21日に囲沢で発見していた足跡26頭+ α の群れがか12月23日に再び囲沢で発見、その後の追跡で25日階子沢林道を横断したことを確認した。

M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)

2016年12月21日 下獅子沢

26頭+ α 【足跡】

米 12月23日、下獅子沢から新右衛門沢へ移動する足跡24頭分を数える。

不明群

2016年12月22日 重兵衛沢

24頭+ α 【足跡】

米 12月21日にも上狄川林道の上流部で3日ほど前の足跡、林道を横断する5本の筋を二か所で確認している。

米 この群れは山一つ越えると、川内町の湯野川地区であるため、湯野川の群れ(M2-B群、またはその関連の群れ)の可能性もある。

ハナレザル

- ・2016年12月23日 佐藤平林道の大西股沢付近で道路を北へ横断する1頭分の足跡。
- ・2016年12月23日 湯ノ股林道の囲沢林道との境付近で1頭分の足跡。
- ・2016年12月25日 三太郎林道で1頭分の足跡。

《 今回の調査で群れと判断できなかった群れと観察できなかった群れ 》

Ka 群

- ・ 2016年12月21日湯ノ股林道で古い複数頭の足跡を確認、数は数えられなかった。また、12月23日にも湯ノ股林道で古い足跡を確認している。これらの足跡の主がKa群の可能性はある。
- ・ 2016年12月21日釜ノ沢林道のあすなら橋100m北で3~4頭分の足跡がKa群の可能性はあるが確証が持てない。また、12月24日紅葉橋付近で西へ向かう5頭分の足跡を確認したが、このサルたちもKa群の一部とも考えられる。ただ、24日、25日と周辺を踏査したが、サル情報は得られなかった。

S2 群 (恐山の群れ)

- ・ 2016年12月21日釜の沢林道の恐山9^号ポイント地点で複数頭(4頭ぐらい)の足跡を発見。これがS2群の可能性はあるが、断定はできない。

I2-C 群

- ・ 今回の調査で確認できなかった。

S1 群 (新田の群れ)

- ・ 今回の調査で確認できなかった。



2016年冬季ニホンザル調査 大畑・薬研地区 踏査ルート図 (車でのパトロールを含む)



2016年冬季ニホンザル調査 大畑・薬研地区 サル情報

B 脇野沢・川内地区

◎ 調査の概要

2016年12月25日～12月29日の5日間、30名の調査員が調査を実施。調査範囲は、むつ市脇野沢全域・男川流域・宿野部川・川内川流域・むつ市川内町湯の川地区とした。

林道及び歩道の踏査を主体とし、直接観察に心がけ、発見時には追跡し、群れの個体数・構成の把握に努めた。また、足跡、フン等のフィールドサインの情報も調査結果に反映させた。

積雪の状況は、調査期間中積雪は少なかった。天候は、晴れの日と雪降りが交互となり、足跡による確認は可能であった。国道338号(海峽ライン)の車ででの通行は、途中までしか行けなかった。川内-佐井線は前線通行ができなかった。

秋の実は、ブナ、ガマズミは不作。ミズナラはやや不作、ヤマブドウやサルナシクリもやや不作。今年の秋の実は概ね不作であった。

◎ 調査結果

今回の調査は、O群関連並びに川内町湯の川地区の群れを重点的に調査実施した。脇野沢地区のA2-84c群・A87-A群は事前調査等で個体数・構成をすでに調査完了していた。よって、調査期間中、これらの群れを調査対象外とした。

【 脇野沢地区 】

《 時系列ならびにパーティ毎の報告 》

12月25日

- ・午前中、桂沢地区でA2-84a群を観察、個体数は5～6頭だったが、背後の森から鳴き声や気配がしていた。午後から芋田地区でA87a群を探すが、鳴き声とわずかに残る残雪に足跡を発見するだけで目視は出来なかった。
- ・九艘泊-滝山線を峠まで、穴間林道、下細間林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・細間林道、青石林道を踏査。15:40下細間牧場でサルの鳴き声を聞く。
- ・細間林道、青石林道、細間上牧場までを踏査したが、サル情報なし。
- ・面木林道、ピーク300.7へ伸びる林道を踏査。伐開地で古い大人一頭分の足跡。ピーク300.7への林道で東へ移動する20頭ぐらいの足跡を確認。

12月26日

- ・川内地区の川内-佐井線のゲートまで、川内湖の周回道路を車でパトロール。11:40～12:20野平地区でZ2-B2群35頭+αをカウント。
- ・国道338号線を川内町の蛸崎地区から源藤城地区まで、県道を本村から九艘泊までを車

でパトロール。その間、9:40~10:45 瀬野地区と新井田地区間で A2-84b 群をフルカウント、25 頭 (内 2Baby) を数える。11:35 源藤城地区の西側伐開地で O1-A 群 (テレメ受信より判定) 32 頭 + α を数える。群れは国道 338 号線まで下りてきて、再び国道西側へ移動する。13:17~14:00、蛸崎地区東の長浜の海岸線を国道 338 号に沿って西へ移動する A2-85 群を発見、46 頭数えるが、カウント漏れがいる。

- ・九艘泊-滝山線を峠まで、穴間林道、青石林道を踏査。多数の糞を発見するが、サルを目撃はなし。
- ・細間林道、下細間林道、穴間林道、青石林道から西海岸の尾根を北上しピーク 300.7 から南下するルートを踏査、サル情報なし。
- ・芋田から九艘泊-滝山線、国道 338 号ゲートまでを車でパトロール。また、下細間林道、細間牧場上下を踏査。14:39~15:19 上と下の細間牧場間で 14 頭 + α を観察。鳴き声などがありまだ多数いる模様。
- ・細間の上下牧場、源藤城地区国道 338 号を踏査。O1-A 群を追跡、14 頭 + α (内 1Baby) を確認。
- ・面木林道、伐開地、を踏査。昨日の足跡を確認したのみ。
- ・海峡ラインを北上、海峡ライン石碑までを踏査。M 字カーブと人切山北ピーク 321 東の国道上に複数頭の足跡。

12 月 27 日

- ・蛸崎地区薬師堂で A2-85 群をフルカウント、65 頭数える。
- ・九艘泊-滝山線を車でパトロール。下細間林道、穴間林道から西海岸の尾根を通り青石林道へ抜けるルートを踏査。青石林道で群れと出会う。別のグループと合流。
- ・蛸崎越林道、源藤城林道、武士泊林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・細間林道、青石林道、穴間林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・海峡ラインの流汗台まで、途中まで車、その後は踏査。14:40~14:58 国道 338 号沿いイノシシ飼育場南で O1-A 群 20 頭 + α (内 1Baby) をカウント。
- ・細間林道、ガンケ山周辺を踏査したが、サル情報なし。
- ・面木林道、伐開地、蛸崎越林道を踏査。国道 338 号沿いで別グループが発見した O1-A 群を 15:00 まで観察。
- ・上下細間牧場、青石林道を踏査。11:41 下の牧場でサルを発見、O1-B 群群れの追跡をしつつ 18 頭 + α を確認するが、まだまだいる模様。青石林道を西へ移動することを確認する。
- ・面木林道から海岸線の尾根を南下しピーク 300.7 から北東へ下りる、滝ノ沢林道を踏査したが、サルのサルナシの食痕を確認したがそれ以外のサル情報なし。
- ・男川地区、小川平林道、男川林道松山沢までを踏査したが、サル情報なし。
- ・男川地区、男川源流部の滝沢、荒川越林道、西大家戸沢林道、弥五左衛門沢林道、板家

戸沢林道を踏査。滑川出合い西で3頭分の足跡を確認。

- ・海峡ライン人切山北車止めまで、川内地区、和白林道、名由林道、湯の小川林道、川内一佐井線ゲートまで、川内ダム道の駅までを車でパトロール。サル情報なし。

12月28日

- ・九艘泊一滝山線を車でパトロール、穴間林道、青石林道、上下細間牧場を踏査。13:55 上牧場の東でO1-A群を目撃。7頭を目視、29頭の足跡を確認。15:00 下細間牧場で観察し終了。
- ・青石林道と穴間林道を踏査。穴間稜線でO1-B群20頭を数える。
- ・源藤城集落、電気柵の畑周辺を踏査、源藤城西の伐開地から細間牧場へ抜けるルートを踏査。14:40 O1-A群を目視。15:30 下牧場の上部に広がる群れを観察し終了。
- ・面木林道、滝ノ沢林道、ピーク300.7から北東の林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・蛸崎越林道、源藤城林道、武士泊林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・海峡ラインのピーク526北側まで踏査したが、サル情報なし。
- ・男川地区、小川平林道、男川林道松山沢途中、滑川までを踏査。小川平林道で3頭以上の足跡を発見。北から南へ移動していた。
- ・男川地区、男川源流部の滝沢、荒川越林道、西大家戸沢林道、弥五左衛門沢林道、板家戸沢林道を踏査。サル情報なし。
- ・宿野部川地区、金八林道と西又沢林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・川内地区、川内ダム道の駅まで、川内一佐井線ゲートまで、を車でパトロール。途中、和白林道と名由林道を少し入り踏査。13:30 湯野川開拓の川内一佐井線の東側でM2-B群(テレメで確認)7頭を観察、その後、3組の親子がいることも確認。群れは県道の両岸にいることも確認。15:23まで観察し終了。
- ・海峡ライン人切山北車止めまで、川内地区、新助川林道、湯の小川林道を踏査。12:14～14:51 湯の小川林道の砂防ダム2号西、イッパイ沢の看板周辺で湯の小川右岸を移動する最大カウント18頭のサルの群れを観察、また、湯の小川を右岸から左岸へ再び渡るオス5頭も確認、合計23頭を観察する。

12月29日

- ・上下細間牧場、青石林道、下細間林道を踏査。13:30 O1-A群を青石林道で目撃、その後、細間林道で姿を確認しながら観察するが、全貌は見えず。
- ・下・上滝山林道を踏査したが、サル情報なし。
- ・細間林道、青石林道、下細間林道を踏査。8:41 O1-A群を青石林道で目撃、青石林道で足跡32～35頭分を数える。最大目視は14:00に18頭。
- ・九艘泊一滝山線、穴間林道を踏査。O1-B群を11:40～12:20観察。九艘泊一滝山線の舗装道路に代わる付近で目視と足跡のカウントで52頭確認。構成はとれず。群れはそ

の後、西へ移動していった。

- ・男川地区、小川平林道を踏査。小川平林道の入口付近で3頭の足跡。昨日のサルたちの可能性が高い。
- ・男川地区、男川源流部の滝沢、荒川越林道、西大家戸沢林道、東大家戸沢林道、板家戸沢林道男川林道滑川、滑川対岸のブル道を踏査を踏査。滑川対岸のブル道（作業道）で北から南へ移動する複数頭の足跡。10頭以上は確認。
- ・川内地区、和白林道を踏査。丸山沢側林道で13:10~13:35サル最大5頭を目撃、足跡は20頭以上を確認。南から北へ移動し、その後は西へ移動していた。
- ・川内地区、湯の小川林道を踏査。13:38~14:30湯の小川林道を南から北へ移動するサル4頭を目撃。4~5歳♂、4歳♂、4歳性不明、3歳性不明で、昨日湯の小川を右岸から左岸へ移動した5頭と同一の可能性大。
- ・川内地区、川内-佐井線ゲートまでを車でパトロール。湯野川開拓でM2-B群をテレメで確認し追跡する。10:30~13:26断続的に群れについていく間にちらちらと姿を見る程度。最大目視は4頭。電波発信個体「ヒノキ」「クリ」は確認できたが、「イチゴ」は調査中一度も受信しなかった。

《 群れごとのまとめ 》

● A2-84a 群

2016年12月25日 桂沢

構成はとれなかった

5~6頭 + α

● A2-84b 群

◀ 構成 ▶

2016年12月26日 9:40~10:45

瀬野と新井田との間 県道を南から北へ横断時

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	1	5	1	7
ワカモノ		6		6
3~4歳	1	1	1	3
2~3歳		2	2	4
1~2歳	2		1	3
Baby		1	1	2
計	4	15	6	25

25頭 (内2Baby)

● A2-84c 群

事前調査を参照

● A2-85 群

◀ 構成 ▶

2016年12月27日 11:55~12:30

蛸崎地区 薬師堂周辺

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	6	20		26
ワカモノ	4	2	1	7
5~6歳	1			1
4~5歳	1	1	2	4
3~4歳		1	6	7
2~3歳			5	5
1~2歳			2	2
Baby			8	8
年齢不明			5	5
計	12	24	29	65

65頭 (内8Baby)

● A87-a 群

事前調査を参照

● A87-b 群

調査期間中、確認できなかったが、同時期にカモシカの調査をしている調査員の情報で2016年12月28日に九艘泊地区の民家近くで複数頭のサルを目撃したとのこと。テレメでA87-a群ではないことから、このサル情報がA87-b群だと判定する。ただし、個体数も構成も取れていない。

● O1-A 群

構成とれず。

2016年12月25日

源藤城地区の西側伐開地

32頭+α

米 O1-A群には1頭のメスに電波発信機が装着されている。

● O1-B 群

構成とれず

2016年12月29日 11:40~12:20

九艘泊-滝山線の舗装道路に代わる付近で左岸から右岸へ横断時 目視と足跡

52頭+α【足跡】

● O2-A 群

O2-A 群は、海峡ラインでよく観察される群れだ。今回の調査で、2016年12月26日 M 字カーブと人切山北ピーク 321 東の国道上に複数頭の足跡を確認しているが、この群れがおそらく O2-A 群もしくは O2-B 群だろう。ただ、どちらともつかず今回は確認できなかったとしたい。事前調査である程度の数は確認できている。

今回の調査で、O2-A 群は未確認

● O2-B 群

2016年12月29日 男川地区滑川対岸のブル道（作業道）で北から南へ移動する10頭以上の足跡。この群れが O2-B 群である可能性がある。ただ、この地域には男川の群れも生息域としているので、この複数頭の足跡がどちらの群れのものなのかは判断できない。（今調査で男川の群れも確認できていないため）今回、O2-B 群については確認できなかったとする。

今回の調査で、O2-B 群は未確認

● B 群および U 群

海峡ラインを北上する踏査を実施しなかった。

B 群および U 群は未調査

● 男川群

2016年12月29日 男川地区滑川対岸のブル道（作業道）で北から南へ移動する10頭以上の足跡。この群れが男川の群れである可能性があるが、上記 O2-B 群の表記同様、どちらの群れとも判断できない。12月28日、29日に男川の小川平沢で発見した3頭の足跡が男川の群れの一部とも考えられる。それぞれ決め手に欠けるため、今回男川の群れは未確認としたい。

今回の調査で男川の群れは未確認

● M2-B 群

M2-B 群は、12月28日、29日の二日間、湯野川開拓の川内-佐井線の県道の周辺で観察した。構成も、ならびに個体数は十分に数えられなかったが、テレメ受信で群れの動向は追えていた。ただ、電波発信個体「ヒノキ」「クリ」は確認できたが、「イチゴ」は調査中一度も受信できなかった。

群れの動向のみ観察
個体数・構成はとれず

● 湯の小川群

12月28日と29日に観察。28日は、湯の小川沢林道の砂防ダム2号西、イッパイ沢の看板周辺で湯の小川右岸を移動する最大カウント18頭のサルの群れを観察、また、湯の小川を右岸から左岸へ再び渡るオス5頭も確認、合計23頭を観察する。翌、29日も左岸へ渡ったオス5頭と推測する4頭を観察する。

《 構成 》

2016年12月28日 12:14~14:51

湯の小川沢林道の砂防ダム2号西

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	5	7		12
ワカモノ	1	1		2
6歳	1			1
3歳	1		1	2
2歳			2	2
1歳			2	2
Baby			2	2
計	8	8	7	23

23頭+α (内2Baby)

● 安部城北の群れ

12月29日、和白林道の丸山沢側林道でサル最大5頭を目撃、足跡は20頭以上を確認。南から北へ移動し、その後は西へ移動していた。

構成とれず

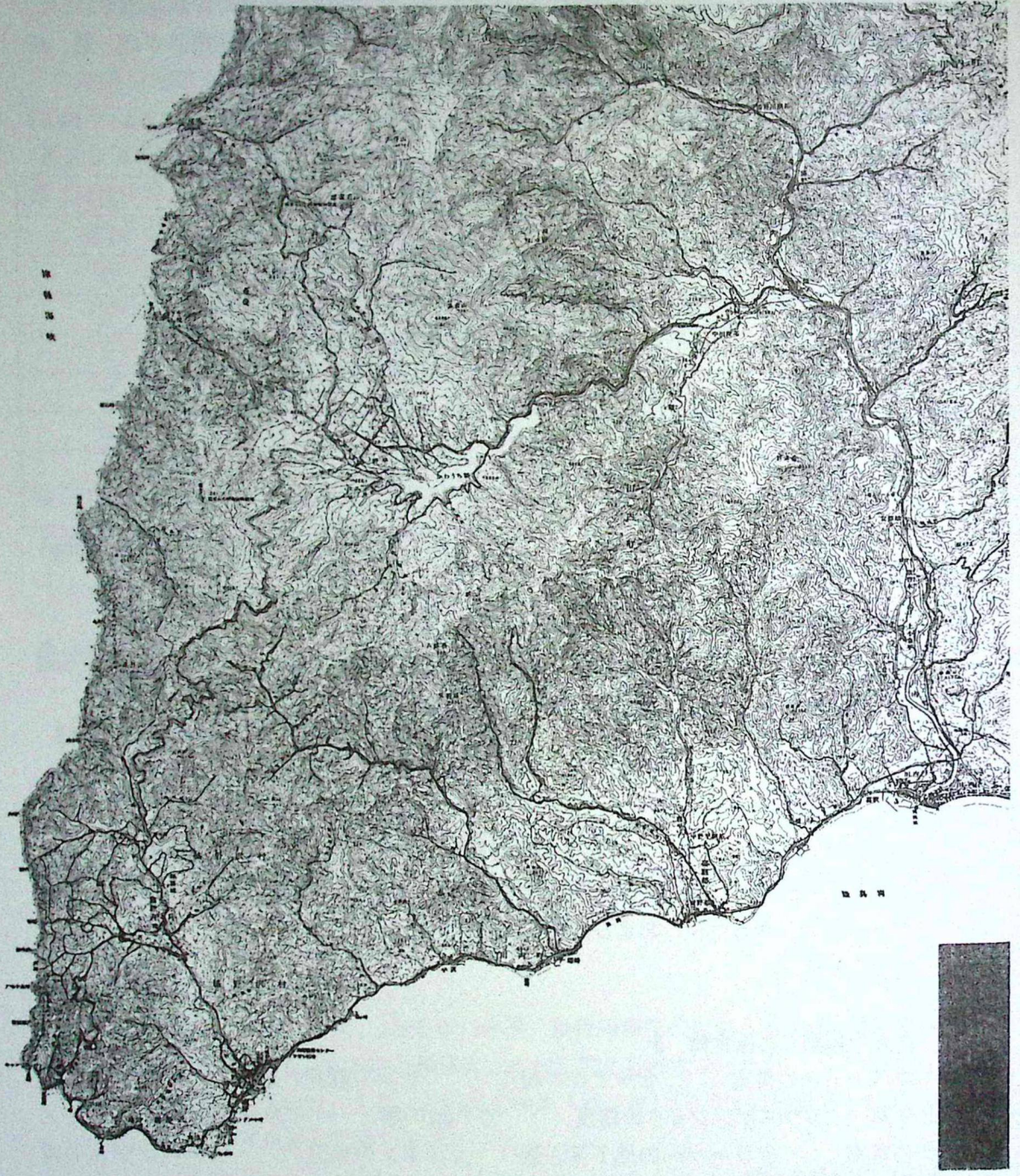
20頭+α 【足跡】

● ハナレザル

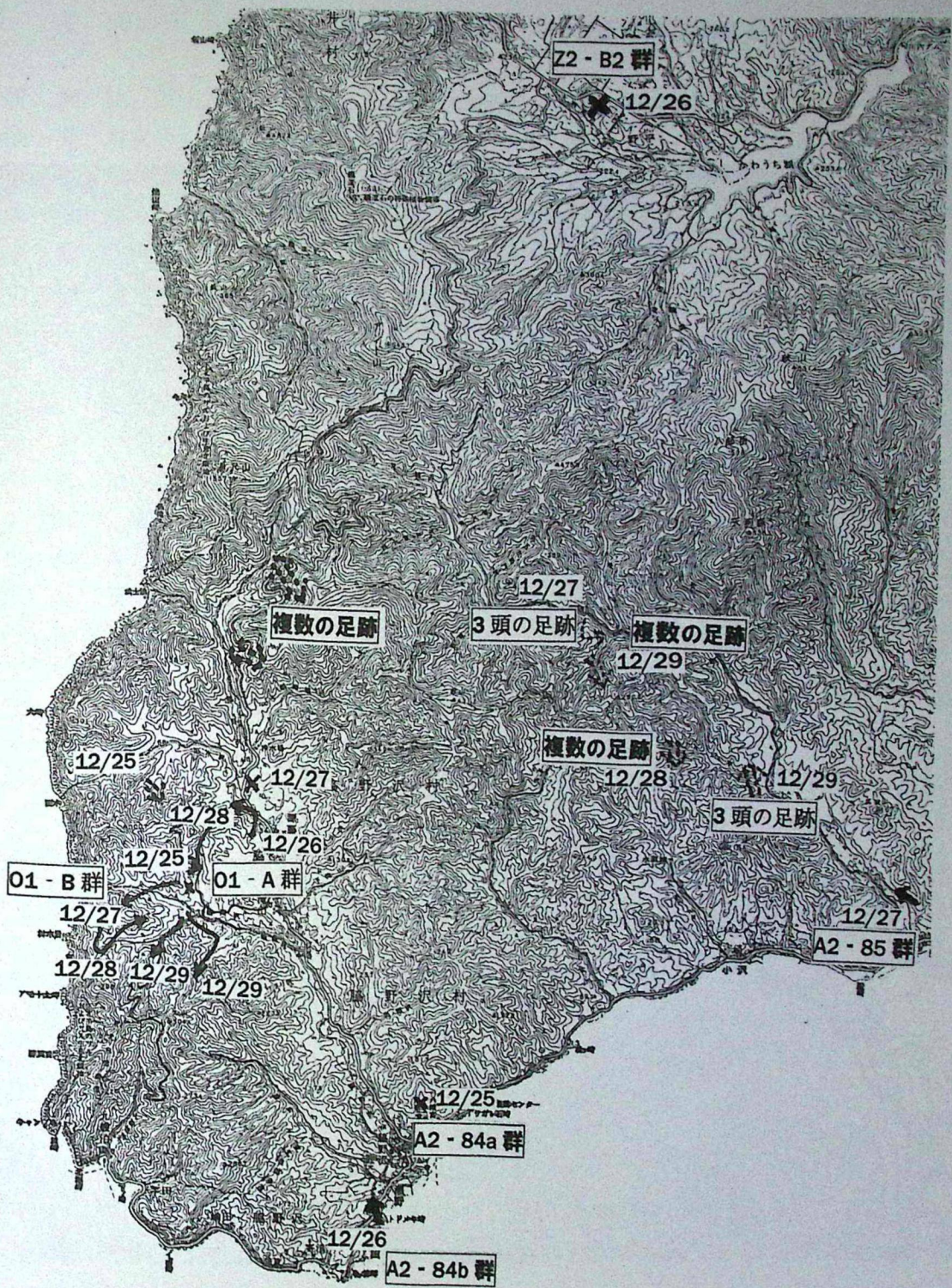
調査期間中、確実にハナレザルとの情報はなかった。1頭または数頭の足跡は確認していたが、群れの周辺並びに少し離れて追従するサルとも考えられ、確実にハナレザルと判断できるサル、および足跡は確認できなかった。

《 調査中観察した採食物 》

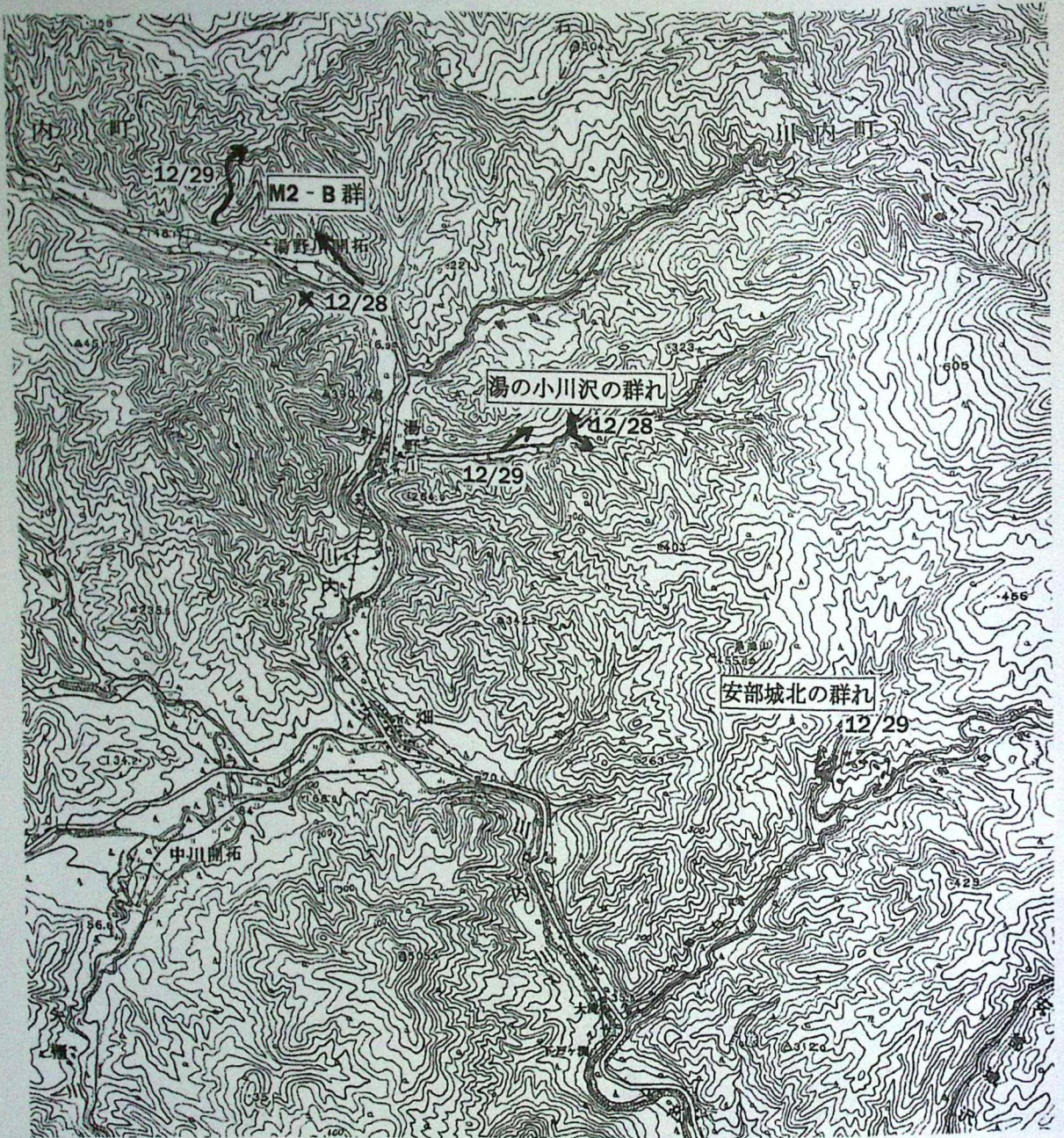
ツルウメモドキの果実 サルナシの樹皮 ササの脇芽と葉 アオダモの樹皮と冬芽
 カラスザンショウの樹皮 スゲspの葉 イネ科spの葉 ミズナラの落実
 クローバーの地下茎と葉 カンボクの果実 イヌエンジュの樹皮と冬芽
 マツの種子 ガマズミの冬芽 サンショの樹皮と冬芽 ツルアジサイの樹皮と冬芽
 ツル性植物の葉 クリの実 ニンジン ダイコン
 キャベツ イネの種子



2016年冬季ニホンザル調査 脇野沢・川内地区の踏査ルート図
(車でのパトロールも含む)



2016年冬季ニホンザル調査 脇野沢地区のサル情報



2016年 冬季ニホンザル調査 川内地区サル情報

4. 補足調査

● I2-A1群 (キノップA群)

【松岡】

＜ 構成 ＞

2017年1月7日 木野部峠

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	1	7		8
ワカモノ	1	1		2
4歳		1		1
1歳	1	1		2
Baby	1		3	4
年齢不明			3	3
計	4	10	6	20

20頭 (内4Baby)

5. まとめ

2016年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果を報告する。

	群れ名	個体数	調査日	調査地	2015年個体数
1)	A2-84a群	27頭+ α (3B)	2016-8-7	細間林道入口	23頭+ α (4B)
2)	A2-84b群	25頭 (2B)	2016-12-26	瀬野と新井田間 県道	32頭 (6B)
3)	A2-84c群	8頭 (1B)	2016-12-3	蛸田集落周辺	13頭+ α (1B)
4)	A2-85群	65頭 (8B)	2016-12-27	蛸崎 薬師堂周辺	69頭 (9B)
5)	A87-A群	60頭 (10B)	2016-12-19	九艘泊周辺	52頭 (9B)
6)	A87-B群	28頭 (4B)	2016-8-7	穴間林道入口	25頭+ α (7B)
7)	O1-A群	43頭+ α (5B)	2016-11-22	細間林道 土捨て場	33頭+ α (7B)
8)	O1-B群	52頭+ α (2B)【目視と 足跡】	2016-12-29	九艘泊 - 滝山線	17頭+ α (3B)
9)	O2-A群	43頭+ α (10B)	2016-8-8	海峡ライン 武士泊林道 周辺	36頭 (9B)
10)	O2-B群	22頭 (3B)	2016-8-10	男川 滑川出合い西	38頭+ α (5B)
11)	男川群	27頭+ α (5B)	2016-8-10	男川 小川平沢林道分岐	21頭+ α (3B)
12)	M2-B群	65頭+ α (9B)	2016-8-7	中川開拓周辺 県道	61頭 (6B)
13)	湯の小川沢 の群れ	23頭+ α (2B)	2016-12-28	湯の小川林道 砂防ダム 2号西	未確認
14)	安部城北の 群れ	65頭+ α (8B)	2016-8-6	県道カモシカライン 大 滝と発電所間	62頭+ α (6B)
15)	I2-A1群 (キノップ A群)	20頭 (4B)	2017-1-7	木野部峠	36頭 (2B)
16)	I2-A2群 (キノップ B群)	6頭	2016-12-20	大畑町二枚橋小学校南の 畑	9頭 (2B)
17)	I2-C群	未確認			未確認

18)	Ka 群	未確認			39頭+ α 【足跡】
19)	Ko-A 群 (イロハの群れ)	55頭+ α (3B)	2016-12-23	大畑地区 堂近集落 農道横断時	25頭+ α (4B)
20)	Ko-B1 群 (ハイロ A 群)	29頭+ α (2B)	2016-12-22	葉色沢出合い 貯木場	29頭+ α (5B)
21)	Ko-B2 群 (ハイロ B 群)	9頭+ α	2016-12-23	小目名地区 羽色神社西 大畑 - 佐井線道路脇	9頭+ α
22)	I3-A 群	11頭+ α 【足跡】	2016-12-25	下近藤沢	7頭+ α 【足跡】
23)	M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)	16頭+ α 【足跡】	2016-12-25	弥一郎沢林道上部 桂平 南	34~35頭+ α (8B)
24)	M2-A2 群 (上狄川の群れ)	34頭+ α 【足跡】	2016-12-21	上狄川林道	22頭+ α 【足跡】
25)	M2-A3 群 (困沢の群れ)	29頭+ α 【足跡】	2016-12-25	階子沢林道	28頭+ α 【足跡】
26)	M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)	26頭+ α 【足跡】	2016-12-21	下獅子沢林道	未確認
27)	S1 群 (新田の群れ)	未確認			未確認
28)	S2 群 (恐山の群れ)	未確認			5頭+ α
※1	不明群	6頭+ α	2016-8-11	宿野部川 金八林道	
※2	不明群	24頭+ α 【足跡】	2016-12-22	重兵衛沢林道	
	B 群	未調査			《36頭+ α 》 2005-8-4

					長右衛門林道
	U群	未調査			未調査 《52頭+ α (13B)》 2012-8-6 牛滝集落周辺
参考	Z2-B2群	35頭+ α	2016-12-26	野平地区	

- ※ B群・U群については、むつ市管内のサル群れではないことで、一覧表には入れないが、調査の継続から掲載する必要があるとし、記載する。
- ※ ※1不明群 2016-8-11 宿野部川金八林道で観察した6頭+ α には大人メスも含まれており、男川群の分裂群か、サブグルーピングしているものか、冬季調査では確認できず、現状では判断できない。また、O2群関連の分裂群の可能性もあり、今後の調査で明らかにしたい。
- ※ Z2-B2群は、冬季調査中、野平地区で確認できたもので、この群れの所在は佐井地区であり、佐井の調査に委ねたい。
- ※ A2-84a群、A2-84b群、A2-85群、I2-A1群、I2-A2群は、個体数調整の対象群であり、捕獲駆除が進み、個体数に変動が見られる群れである。それぞれの個体数はあくまでも調査日現在のものであり、その後捕獲され減少している場合もある。
- ※ A2-84a群は、生息域を口広沢まで東進、国道338号の両側を主たる遊動域としているが、東側サイドヘシフトしつつある。それが影響してか、どうかは不明だが、A2-85群は宿野部地区の西の畑周辺まで東進。ヌイド沢、辰内沢あたりで両群が接触することが多くなっている。また、捕獲がかなり進んだが、今ではなかなか捕獲できない状況になっている。
- ※ A2-85群は、現状もサブグルーピングする傾向が強まっている。分裂の可能性が高いが、捕獲の効果か、個体数が60頭ぐらいで安定しているともいえる。
- ※ A2-84b群は芋田地区から国道338号線までが遊動域、主には瀬野地区、新井田地区、寄浪地区、蛸田地区、牛の首岬周辺の県道沿いである。捕獲がかなり進んだが、今ではなかなか捕獲できない状況になっている。群れに大人オスが1頭しかいないのが特徴だ。ただ、秋にワカモノのオスが追従オスとして群れの周辺で確認されている。

- ※ A2-84c 群は、群れの個体数も少なく、夏季ならびに冬季調査期間中に確認することが難しい。寄浪地区から蛸田地区、芋田地区、九艘泊地区の海岸線で観察することが多い。今回は事前調査中に確認できたが、継続調査が難しい状況となっている。
- ※ A87 - A 群は、九艘泊・芋田地区を中心に中細間沢、瀬野林道までを主な遊動域としている。瀬野川流域を利用する機会が多くなっている。調査・研究が進んでいる群れで今後の保護管理やサルとの共生においても貴重な群れといえる。
- ※ A87 - B 群は、九艘泊・芋田地区から中細間・穴間・青石と、南北に広く遊動している。A87-A 群や O 群関連の群れと遊動域が包含していて、電波発信機もついておらず、群れの同定が難しくなっている。
- ※ O1 - A 群は、電波発信機が装着しているため、群れの同定が可能な群れである。今後の調査で遊動域が確定してくるだろう。細間林道、細間牧場を主な遊動域としているが、滝山地区や片貝地区、源藤城地区の国道 338 号の西側で出没することが多い。片貝地区や源藤城地区の電気柵の畑に出没し始めている。今後の動向を注視しなければならないし、畑から追い上げるなどの対策が急がれる群れである。
- ※ O1 - B 群は、電波発信機がついておらず実態をつかむのが難しい群れである。ただ、O1 - A 群よりも西側、西海岸線側に分布している。人との接触は少なく、人と出会うと逃げる群れである。今調査で個体数が 50 頭を越えているため、分裂やサブグループピングなど群れに変化が現れる可能性が出てきた。
- ※ O2 - A 群は、海峡ラインを中心に面木林道、武士泊林道、それに細間林道、細間牧場、男川上流部(板家戸沢より上流)までを東西に広く遊動域としている。2016 年の初冬、田の頭地区で確認した。大人メスに鼻に縦に切れ込みがある大人メスがいますが、電波発信機が未装着なので、なかなか実態をつかむのが難しい群れである。源藤城地区の電気柵に出没することもあり、追い上げ等の対策が望まれる。
- ※ O2 - B 群は源藤城の電気柵の畑を南限とし、北は海峡ラインの大荒川林道入り口近くまで南北広く遊動している。男川上流部も利用している。電波発信機装着個体が死亡したため、再び群れの動向をつかむのが難しくなっている。源藤城地区の電気柵畑への出没が懸念され、動向を追う必要がある。
- ※ 男川群は、かろうじて群れの継続調査ができています。近年、男川上流部よりも東、松山沢出合いや小川平沢、そして、宿野部川上流部まで生息域を広げている。男川上流

部に O2 群関連の群れが進出していることが、男川群が南下、東進しているのに影響しているのだろう。今回、不明群とした宿野部川金八林道のメスを含む 6 頭+ α の群れとの関連を明らかにしたい。

- ※ 川内川流域(本流)に分布する M2-B 群は、電波発信機が装着されており、毎回情報を得ることができるようになった。60 頭を超える群れであり、分裂の可能性が高い。また、湯の川集落などに出没し、農作物被害を出すようになっている。佐井村の川目地区までかなり南北に広い遊動域を持つ。今冬の調査期間中、電波発信個体「ヒノキ」「クリ」の電波は確認できたが、「イチゴ」の電波は調査中一度も受信できなかった。
- ※ 湯の小川沢の群れは、遊動域としては、新助林道・湯の小川林道を中心に分布し、30 頭までの群れと推測している。今回、2 年ぶりに直接観察できた。
- ※ 安部城北の群れは、60 頭を越え分裂する可能性がある。川内町のブドウ園に最も近い群れであり、動向を知るためにも電波発信機の装着が望まれる群れである。
- ※ I2-A1 群、I2-A2 群は、ともに捕獲駆除の対象群であり、個体数の減少が見られる。今後も捕獲駆除が進むことで個体数が減ることが予測できる。I2-A1 群を「キノップ A 群」、I2-A2 群を「キノップ B 群」と愛称をつけ、遊動域との関連付けられるようにした。I2-A1 群「キノップ A 群」は、木野部峠が主な生息域で、工事現場や道路のり面での目撃が頻繁にある。I2-A2 群「キノップ B 群」は、二枚橋小学校周辺から大畑道の畑、八幡湯坂地区の集落周辺で目撃されることが多い。
- ※ IC - 2 群は、未確認であった。三衛門林道、佐藤ヶ平林道周辺を生息域としていると予測しているが、調査中、それらの地域まで調査ができなかった。
- ※ Ka 群は奥薬研から釜の沢林道周辺が主な生息域と推測しているが、今回、確実に Ka 群と断定できる群れは見られなかった。湯ノ股林道や釜の沢林道、紅葉橋周辺で複数頭の足跡を確認していたが、確証が持てなかった。
- ※ Ko - A 群(イロハの群れ)は、今回大畑町堂近地区周辺で 3 日間観察した。クリ林に執着していたようだ。個体数が 50 頭を越えているため、分裂等、群れに変化が出てくる可能性がある。堂近地区などには電気柵が張ってあるが、追い上げ等の対策が必要だろう。大人♀に発信機がついているが、発信していない。
- ※ Ko - B 群(ハイロの群れ)は、2015 年度の調査で 9 頭+ α の群れを再び同じ場所で観

察し、同時に 29 頭 + α を観察したことで、2 群いると判断し、Ko - B1 群 (ハイロ A 群) と Ko - B2 群 (ハイロ B 群) とした。Ko - B1 群 (ハイロ A 群) には電波を発信しているオスと電波を発信していない大人メスがいます。

- ※ I3 - A 群は、前々の調査では 60 頭を超える個体数を記録していたが、今回は群れの全貌を掴めなかった。下近藤沢で目視を含め足跡 11 頭を数えた群れを I3 - A 群とする。すでに分裂しているとも考えられるが、なかなか全貌をつかむのが難しい。
- ※ M2 - A 群関連の 4 つの群れは、大畑川の源流部に生息する群れで、なかなかその実態がつかめていない。今回、それぞれ目視並びに鳴き声を観察していたが、全貌を捉えるまでにはいかず、群れの個体数としては、足跡に拠るものとなっている。また、大畑川の源流域は尾根を越えると、川内町の川内開拓地や新助林道に続く、川内町の佐井 - 川内線(カモシカライン)に出没することも十分可能で、川内地区の調査とも併せて考慮する必要がある。
- ※ ※2 不明群は、M2 - A 群関連の 4 つの群れ以外に確実に足跡で確認した群れである。ただ、サブグルーピングや分裂の可能性や、川内地区との群れとの関連もあり、今回は不明群として扱う。今後の調査で、M2 - A 群関連の 4 つの群れや川内地区の群れとの関連を考慮しつつ、判断していきたい。
- ※ S1 群(新田の群れ)、S2 群(恐山の群れ)は、S1 群 (新田の群れ) については新田地区の調査ができなかったことから、未確認である。S2 群 (恐山の群れ) は釜の沢林道の恐山 9 番ペイント周辺の足跡の情報が S2 群とも推測できるが、確証が持てず未確認とした。
- ※ 本調査では確認できていないが、建川氏ならびにむつ市鳥獣対策の職員からの情報でむつ市関根地区から高梨地区にかけての範囲に 20~30 頭ぐらいの群れを確認しているとのこと。

[ハナレザル・オスグループ・小グループ]

本調査期間中に確認したハナレザル・オスグループ・小グループのみについて報告する。

《 大畑・薬研地区 》

- ・ 2016 年 12 月 23 日 佐藤平林道の 大西股沢付近で道路を北へ横断する 1 頭分の足跡。
- ・ 2016 年 12 月 23 日 湯ノ股林道の 囲沢林道との境付近で 1 頭分の足跡。
- ・ 2016 年 12 月 25 日 三太郎林道で 1 頭分の足跡。

むつ市管内のニホンザル

2016年調査結果

[2015年調査結果]

《 脇野沢地区 》

群れ数	11群	[11群]
個体数	400頭 + α (内 53B)	[359頭 + α (内 63B)]

※ むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1群)は含まない。

《 川内地区 》

群れ数	3群	[3群]
個体数	153頭 + α (内 19B)	[123頭 + α (内 12B)]

《 大畑・葉研地区 》

群れ数	14群	[13群]
個体数	235頭 + α (内 9B)	[243~244頭 + α (内 21B)]

《 むつ市全域 》

群れ数	28群	[27群]
個体数	788頭 + α (81B)	[725頭~726頭 + α (内 96B)]

脇野沢地区は2016年度の調査では各群れともかなり精度の高い結果が得られた。特にO群関連の群れは調査が難しいが、今回は幸運にも正確な実態が掴めた。その結果、個体数が前年度よりも増加したものと推測できる。

川内地区では、川内川流域に3つの群れが生息しているが、こちらもかなり正確な結果となった。ただ、野平地区・川内ダム側からZ関連の群れ、ならびに分裂群が進出しており、今後川内ダムと畑集落間に群れが定着する可能性がある。また、安部城北の群れとM2-B群の個体数が60頭を越えることで、近々、分裂の可能性が高い。特に安部城北の群れは、下北ワインのワイナリーに最も近い群れであり、その動向に注視し、素早い対応が望まれる。

大畑・葉研地区では、Ko-B群の分裂し群れ数が一つ増加した。また、未調査地域の高梨川流域にも群れの存在が確認されており、もう一群れ存在する可能性が高い。今後の調査で実態の解明に努めたい。Babyが少ないのは、足跡による確認のためだ。

むつ市全体では、捕獲の効果もあり、個体数はやや増加という結果になった。川内地区湯野川地域のサルの群れの動向に大きな変化が出る可能性が高い。

【 訂正 】

2015年度報告書（去年の報告書）に関して、大畑・薬研地区のKo-A群（イロハの群れ）とKo-B群（ハイロの群れ）の調査結果を精査したところ、以下のように訂正します。よって、まとめにおいて2015年度の大畑・薬研地区の個体数が245～246頭のところが243～244頭に、むつ市全域の個体数が727～728頭から725～726頭に訂正となります。ただし、Babyの数に変更はありません。

Ko-A群（イロハの群れ）

2015年12月25日 9:56～10:36 薬研大橋 大畑川右岸

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	6	13		19
ワカモノ		1		1
1歳			1	1
Baby			4	4
計	6	14	5	25

25頭 + α (内4Baby)

Ko-B群（ハイロの群れ）

2015年12月26日 10:07～10:44 大畑川薬研大橋東 左岸

《 構成 》

	オス (♂)	メス (♀)	性不明	計
オトナ	4	8		12
ワカモノ		1	1	2
5～6歳	2			2
4歳	1			1
3～4歳	1			1
3歳	1			1
2歳			3	3
1歳			2	2
Baby			5	5
計	9	9	11	29

29頭 + α (内5Baby)

下北半島のサル

2016年度(平成28年度)調査報告書

発行者 NPO法人

ニホンザル・フィールドステーション

発行日 2017年5月10日

編集・印刷 松岡史朗

☎039-5326

青森県むつ市脇野沢桂沢90-1

TEL・FAX 0175(44)2620